

No. 8 情報カードの利用の仕方

1. 情報カードで整理する意義

- あるテーマについて調べたことを情報カードに記録しておく、カード内容を比べたり関係づけたり組み合わせたりするなど、情報を整理・分析することを可視化して、思考をまとめ深めることができる。
- 情報カードの記入の基本(「No.B-7-1 情報カードの書き方」参照)
 - 1枚に1項目書く／表面だけを使う、裏面には書かない／書いた内容について見出し(タイトル)をつける／箇条書きや図や記号を使ってわかりやすく見やすく書く／引用のルールを守る／
- 学習時には基本的な情報カードの利用法を指導し情報カードの利用に慣れさせる。基本を身に付けておけば、今後、思考を可視化し深めていく方法として、情報カードを自分の目的に合った方法や形式にアレンジして利用できるようになる。特に小学校ではデジタル思考ツールの利用に先立って、手書き・手作業の情報カードの書き方・利用方法を学ぶなかで思考を深める経験をさせたい。実際に手で情報カードを動かして、レポートや発表の構成を考えるという具体的な行動が、論理的思考につながっていく。

2. 情報カードを使ったまとめ方の流れと指導 (児童生徒の発達段階によって考慮する)

個人個人が書いた情報カードを机に並べて(広げて)、レポートや発表の構成を検討していく。タブレットの画面ではなく広い机の上で行うと、全体像が把握しやすい。

*ホワイトボードに実際に情報カードを貼りつけながらグループ分けなどを説明する。
*パワーポイントや教材提示装置を使って説明する。
*個別の支援・指導が必要。

(1) 情報カードをグループ分けする。

- ・情報カードのタイトルを見ながら、似た内容のものをグループ分けしていく。グループによって、情報カードの枚数が多いものも少ないものもある。
- ・グループごとにタイトルをつける。
- ・一応グループに分けたら、まとめたり分けたりすることができるグループはないかどうかを確認する。

(2) 情報カードを吟味(取捨選択)する

- ・グループのタイトルを見ながらグループ間の関係を考え、全体の構成を考えながら、不要なグループがあれば、そのグループの情報カードは外す。カードは全部使わなくてもよい。
- ・グループのなかの情報カードについて、カードのタイトルを見て不要な情報カードは外す。
- ・グループのなかの情報カードについて、不足している情報があれば、さらに調べて情報カードを増やす。

(3) レポートを書いたり発表したりするための構成を考える。

- ・構成(はじめに、1章、2章…)を決め、グループに順番をつける。
- ・グループ内の情報カードを書く内容の順に並べる
- ・情報カードを順番に見ながら、レポートや発表原稿を書く。

3. 情報カードは自分のデータベース

- 『知的生産の技術』(梅棹忠夫 岩波書店 1969)の刊行以来、京大式カード(B6判)が普及したが、現在はサイズ、様式、色など様々なものがある。ファイルしたカードの蓄積は「自分のデータベース」と言える。
- レポートを書いたり発表したりするためばかりでなく、ディベートのために論拠を集める場合や、意見文や論証文を書く場合などでも、調べたことなどを記録し、思考を深める方法としてカードを使うと良い。
- 調べたことの記録ばかりでなく、自分の考えや思いつきなどをカードに書き留めておくと、カード間の関連やカードの組み合わせなどから新たな思考が芽生えることもある。
- 情報カードの利用は、並べ替えたり関連づけたりできる思考の可視化という点で付箋紙の利用と共通点がある。